

康

後縦靱帯が骨化

背骨をつないでいる後縦靱帯が、何らかの原因で骨に変化(骨化)してしまう「後縦靱帯骨化症」という病気がある。「骨化が進む脊髄神経の圧迫が強くなる」と、手術が必要になります」と、慶応義塾大学医学部(東京都新宿区)整形外科教室の石井賢一主任講師は説明する。

▽骨化は頸椎に多い
背骨は積み木のように重なり、中心部はトンネル状で脊髄神経が通っている。そのすぐ前側を背骨に沿ってあるのが後縦靱帯で、背

骨同士をつないで補強する役割を担っている。ところが何らかの原因で骨化すると脊髄神経が圧迫され、さまざまな症状が表れる。初期症状は手や腕のしびれ

初期は手や腕のしびれ

れから始まり、次第に手指が動かしづらくなる。症状が進むと、歩行障害や排せつ障害などを伴う。転倒などの衝撃で、骨化した部分が脊髄神経に触れて、症状が悪化することもある。

男性は女性の約2倍と多く、50歳以上で日本人に多いのも特徴だ。原因は不明だが、遺伝的な要素や環境因子、ホルモン異常、カルシウム代謝異常、糖代謝異常などが疑われている。

診断は主にエックス線検査やCT検査で行われる。骨化する部位は圧倒的に首の頸椎(けいつい)に多く、続いて背中や胸椎だ。治療法は場所により異なる。▽手術後も定期的な診察を

治療法には大きく二つあり、症状が軽い場合は生活指導、薬物療法、温熱療法など理学療法を中心とした保存療法を行う。後縦靱帯

50歳以上の男性に多い



神経の圧迫で初期には手や腕にしびれを伴う

骨化症の約7割は、骨化が徐々に広がるため、症状が進んだ場合は手術を検討される。手術の方法は三つある。最も一般的に行われるのが「椎弓形成術」で、首の後方を切開し、脊髄神経が通るトンネルの一部の骨を切り開き、圧迫を取り除く。

背骨の並びが厚く骨化が背中まで及ぶ場合は、それに代えて、首のカーブに沿って背骨を金属で固定する「後方除圧固定術」を行う。また、首の前方を切開し、椎骨と骨化した後縦靱帯を

切除する前方除圧固定術もある。ただし、こちらは難易度の高い手術になる。手術をしても、年月を経るにつれて骨化が再び大きくなり、再び脊髄神経を圧迫することもある。「症状が軽くても必ず定期的に医師の診察を受ける。」と、石井主任講師は助言する。(メディアカルトリビューン=時事)

慶応義塾大学病院の所在地は、〒160-8502 東京都新宿区信濃町35。電話03(3343)1211(代表)。

頸椎の後縦靱帯が骨化している症例(慶応義塾大学整形外科教室提供)

